

古土の再利用法

Q. 古い土を花づくりに使いたいのですが、病気や虫の発生が心配です。
どうしたらよいでしょうか？

A. プラスチック袋に土を湿らせて入れ、炎天下に10～15日さらしておけば、ほぼ十分に消毒できます。これを太陽熱消毒といいます。

＜ポイント＞

袋の中の温度は70℃くらいに上がらないといけないので、温度計で確認します。

太陽熱消毒の手順

1. 古土の調整

前作が終了したら水をきり、土を乾かしてふるいを通し、できるだけ根を除きます。そして、水を十分にかけて、土の肥料分を洗い流します。

2. 土の袋入れ

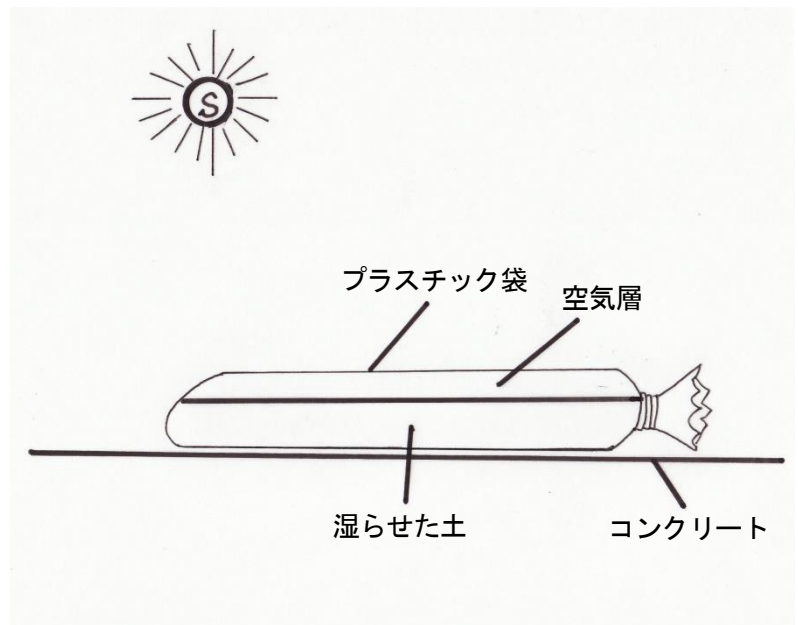
透明度の高いプラスチックの袋に、かなり湿った土を空気層ができるようにゆったり入れ、口をしっかりとしばり、できるだけ平たくし、表面積が大きくなるように置きます。

3. 処理温度と期間

真夏の炎天下で行なうのが最も効果的です。袋の中の温度が70℃くらいに上がればおよそ10～15日で十分に消毒できます。

4. 消毒済の土の保管

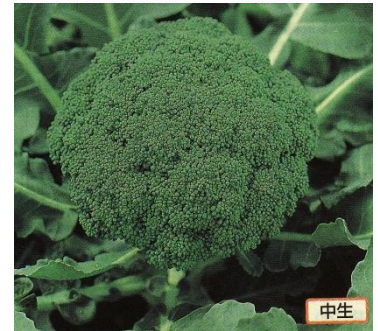
袋に入れたままで雨のかからないところで保管します。



ブロッコリーのプランター栽培

Q. ブロッコリーのプランター栽培法を教えてください。

A. 大きめのプランターを使って、8月中にタネをまき、水も肥料も切らさないようにして育てることが大切です。



<ポイント>

側枝花蕾がよく付く品種を選び、アオムシに注意して、暖かいうちに大株に育て花蕾は早めに収穫します。

1. 品種の選択

側枝花蕾兼用種の極早生 'シャスター'、中早生 'ハイツ'、中生 'グリーンハット'、中晩生 'グリーンビューティー'。

2. プランターと土

プランターは大きいほど多収になります。土は堆肥や腐葉土が多く入っているものが向きます。

3. タネまき

8月中にプランターに2すじにまき、土をうすくかぶせ、水を与え、湿らせた新聞紙をかけて日陰に置きます。3~4日で発芽しますから、株間3~4 cmに間引きます。

4. 育苗

本葉2枚のときに9 cmポリポットに移植し、本葉4~5枚まで育てます。

5. 定植・施肥・水やり

条間20 cm、株間16 cmとって、株もとの土を山形に盛り上げて植えます。元肥をプランター当たり40 g施し、以後20日ごとに同量を6回(12月中旬まで)、溝を切って与えます。水も十分に与えます。

6. 頂花蕾収穫

頂花蕾が直径10 cmくらいになったら、早めに蕾の下5 cmくらいつけて収穫し、側枝を伸ばします。

7. 側枝花蕾収穫

蕾の径が4 cmほどになったら随時収穫します。